

く、発言は自民党総裁としてしたものだ」と立場を使い分け、「(国会答弁には)首相として立っており、(自民党)総裁としての考えはそこ(新聞)で知ってほしい」と述べた。

「新聞を読めよのか」。野党側は答弁を避けた首相に反発し、騒然となった。野党の理事に詰め寄せられた浜田靖一委員長(自民)は「一部新聞社の件々あったが、この場では不適切なので、今後気をつけてい

第2次安倍政権誕生以降の
政権・自民党とメディアの関係

- <2012年>
- 12月 第2次安倍政権が発足
- <13年>
- 1月 内閣記者会との慣例によらず、相が報道機関の単独インタビューを通じた発信を開始
- 7月 TBSの報道番組が「公平さをいた」として、自民党役員が参選公示当日にTBSの取材を否。翌日解除
- <14年>
- 11月 衆院選を前に、TBSの報道番組がアベノミクスに否定的な街の紹介したところ、生出演中の相が「選んでおられる。全然、が反映されていない」と不快感を示す。その後、自民党が在京テレビ各社に選挙報道の「公平中立」を求める文書を渡す
- 同月 自民党がテレビ朝日の報道番組アベノミクス報道に対して「公平中立」を求める要望書を出す
- <15年>
- 7月 安全保障関連法の審議を巡り、民党が所属議員に報道機関の取を断るよう指示。衆院通過後、相はBS日テレとフジテレビに時間出演し、政府の考えを説明
- <16年>
- 7月 首相が参院選投票日の慣例だったラジオ各局への個別出演を拒

工夫して継続取材を

歴史的背景のある対象

ジャーナリズムは、伝える対象の時間の経過や範囲(レンジ)に応じた報道の仕方が求められる。目の前の突発事件に対する瞬発力と共感力、一定のあいだ継続的にニュースが続く場合の追及力と解説力、そして膠着状態に陥っているような事案に対する歴史的視点を持った深い洞察力と、しつこく繰り返す忍耐だ。この1カ月はこの見事に、これらを求められる出来事が重なり、いつも以上に記者の能力が試された。

今村雅弘・前復興相の「東北でよかった」発言は、失言というより本音とも取れるものだが、それゆえに官邸がメディア以上の瞬発力を発揮して更迭へと進んだのだろう。さらに、発想を逆転させた一般市民の共感ツイートが、見事に政治家の問題性をあぶり出し、マスメディアの報道を超えたと見える。

消えては浮上する「森友学園問題」は、論点が拡散するほど報道側の整理が必要になる。当事者間の主張をそのまま伝えるだけではなく、その時々で振り返ったり、まとめ直したりしてその意味を論じないと、受け手は政府の側の鎮静化圧力に抗することができない。国会審議中の「共謀罪」も同じだ。さまざま

な角度から繰り返し問題点を指摘し続けることで、初めて読者・視聴者の理解は進む。より深く地道に疑問点や矛盾点を探る取材努力の継続が必要だ。これは調査報道の手法とも重なる。報道をする上で一番難しいのは長い歴史的背景を負って膠着状態に陥った事案だ。そこでは主張のいかに関わらず問題を整理し、議論の場を提供し続けることが求められる。事実を伝えるだけでは読者は事態を理解できず、問題を見逃す結果につながりかねないからだ。

沖縄県名護市の新基地建設では4月に埋め立てが始まった。サンゴ礁を破壊する不可逆的な局面だったが、東京の報道は裁判係争中に比べて量が減少し、

事態が收拾したかのような錯覚すら覚えた。普天間飛行場の移設の動きが具体化してからの20年、日本と切り離されて米軍が占領した時代、「捨て石」と言われてきた琉球の歴史——といったさまざまな背景をもとに考える必要がある。

定点観測を含め、長いレンジの取材に耐えうる継続的・安定的な態勢を持つジャーナリズムは、いまの日本社会では新聞と一部の放送局しかない。その社会的役割は、節目ごとの特集以外に、日々のストレートニュースの工夫や、ウェブサイトのアーカイブ機能の活用などで発揮される。まだまだできることは多いはずだ。受け手である市民の思考停止を生み、現状肯定の空気を醸成することだけは避けなければならぬ。

（専修大教授・言論法）



ジャーナリズム
ウオッチ
山田健太

次回は6月8日に掲載予定

を張って反対しなければならない。

本当に必要なのか考えてほしい

法相も説明できない愚かな法律
▽大谷昭宏さん 法相が答えられない法律を国民に押しつけたら、国民は何をしたら罰せられるかも分からなくなる。そんな愚かな法律があるか。組織的犯罪集団

▽津田大介さん テロ対策のために安全を取るか、人権を取るかというシンプルな構図だが、国会で議論されていない。日

